

令和7年度 第3回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

日 時	令和8年2月10日（火）午前10時30分～午前11時30分	
場 所	羽島市役所301会議室	
出席者	<p>（生涯学習都市推進会議委員）出席者18人（欠席者1人）</p> <p>松井 聡 委員 市長 大橋 好三 委員 老人クラブ連合会代表 小森 博昭 委員 スポーツ推進会議代表 中山ゆりえ 委員 PTA連合会代表 堀 登司仁 委員 社会教育委員代表 岩田 睦巳 委員 小中学校長会代表 高橋 範行 委員 高等学校代表 岩田 明 委員 自治委員会代表 近藤かよ子 委員 学識経験者 益川 浩一 委員 学識経験者 國枝 篤志 委員 副市長 森 嘉長 委員 教育長 三輪 弘司 委員 健福祉部長 熊崎 房子 委員 健福祉部子育て・健幸担当部長 堀 一男 委員 産業振興部長 小川 剛矢 委員 障がい者支援団体代表 浅野 弓子 委員 公募委員 田谷由紀子 委員 公募委員</p> <p>事務局</p> <p>伊藤佳津子 市民協働部長 丸山 靖生 生涯学習課長 冨田 修平 市民協働課長 柴田 泰宏 スポーツ推進課長 番 重宗 図書館長 國井真美子 子育て・健幸課長 見山 章浩 学校教育課長 牛田紗耶香 生涯学習課係長 辻 朝子 同課主任</p>	
内 容	<p>1 会長あいさつ</p> <p>2 意見交換 羽島市生涯学習都市づくり5カ年計画（令和2年～7年度）に基づく 令和7年度の進捗状況について</p> <p>3 協議事項 次期「羽島市生涯学習都市づくり5か年計画」（案）について</p>	

令和7年度 第3回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

意見交換	<p>羽島市生涯学習都市づくり5カ年計画（令和2年～7年度）に基づく令和7年度の進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき生涯学習課長より説明 ・会長の進行に基づき意見交換（委員及び事務局から補足説明）
<p>資料1：令和7年度の進捗状況 分野1 家庭〈P. 1〉 （資料2：目標指標 含む）</p>	
会長	<p>「子育て相談センター羽っぴい」の活動内容について概略をご説明願う。</p>
委員	<p>資料にあるように伴走型相談支援と経済的支援を実施しているのが「子育て相談センター羽っぴい」である。</p> <p>妊娠届を出されたタイミングで妊婦と保健師が直接面談を実施している。母子手帳の交付は原則面談であり、そのときに、妊婦の心の状態や健康状態をお聞きし、母子手帳を交付するという形をとっている。それが妊婦の状態について市が把握できる最初の接点になる。</p> <p>続いて、妊娠8ヶ月頃に市からご案内を差し上げて、アンケートをとっている。アンケートはほぼ返送いただいております。面談の希望や、悩みがあるといったことをアンケート結果から汲み取り、保健師が場合によって面談させていただく。面談を希望されるのは限られた方で、多くの方は、順調にお子さんのお腹が大きくなっているということに安心しておられる方が多い。アンケートの返信がない方には、市から積極的に連絡を取り、確認をしている。</p> <p>無事に出産を迎えられたのち、生後4か月頃までには、赤ちゃん訪問を行う。助産師や保健師がご家庭に伺い、赤ちゃんとお母さんの心身の状態、赤ちゃんの成長を、体重を測るなどしながら悩み事を聞くなど、コミュニケーションをとる。これが伴走型相談支援という形でお母さんを支える体制である。</p> <p>経済的支援では、妊娠の届け出をされた時点で、国の施策として5万円の給付をしている。また、出産後にもお子さん1人あたり5万円を給付し、子育て支援施策が充実してきている。</p> <p>これらは妊娠から出産後までの話だが、その後は乳幼児健診などさまざまな機会を通じて子育て支援を行っている。以上が「子育て相談センター羽っぴい」の活動の一例である。</p>
<p>資料1：令和7年度の進捗状況 分野2 青少年〈P. 2～4〉 （資料2：目標指標 含む）</p>	
会長	<p>男女共同参画について、羽島市では子育てや女性の活躍について企業の事業促進PRをしており、国から認定を受けている企業も非常に増えている。企業の男女共同参画の関係で補足があれば発言願う。</p>

令和7年度 第3回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

委員	<p>男女共同参画について、企業では一般事業主雇用事業計画を策定することが義務づけられており、主には子育てや男性の育児休業の取得によって企業価値を高めるという取組で、国・県でも「くるみん」や「えるぼし」など様々な認定制度を設けている。</p> <p>羽島商工会議所と市が連携して、こうした事業を周知している。市内でも事業認定されている企業は多数あり、企業価値を高めて市の産業振興を図るとともに、子育て環境や労働者の不足についても対応をしている状況である。</p>
会長	<p>教育相談の充実について補足説明を願う。</p>
委員	<p>いわゆる不登校については、社会的な課題になりつつある。最近は、基本的な考え方として、不登校は問題行動ではなく、多様な学びであると捉えられている。学校の学びが合わなかったり、自分なりの学びを試みたいといったりする子どもたちの選択肢を、できるだけ大きく広げるといことである。資料に「個に応じた」とあるが、今年新たに開設した「あさひ」は個別での学びとともに、小集団グループでも学ぶことができ、できるだけ選択肢を多くしている。</p> <p>メタバースも同様で、中には人と会うこと、場に出て行くことができない子どもたちもいる。そこで、メタバースのように匿名性があり、自分の立場を表さずに交流できる場を用意している。</p> <p>資料に「こだま」22人、「のぞみ」19人、「あさひ」21人、「ひかり」5人とあるが、これは延べ数である。学校に行きつつサポートルームに通っている子どももいれば、「こだま」と「のぞみ」を併用している子どももいる。多様な子どもたちのニーズに応じた対応を大事にしている。</p> <p>この延長線上に、子どもたちの社会的自立を目指していくことが大切である。中学校を卒業して高校へ進んでも、なかなか高校生活に適応できない子どもたちがいるので、今後、義務教育段階の子どもたちと、義務教育を終えた子どもたちの壁をなくしてサポートできる場所や、機会があるといいと思う。</p>
委員	<p>居場所は学校へ戻すためではなく、安心して過ごせる場所そのものに価値があるという視点が大切だと感じた。</p> <p>子どもだけではなく、保護者への相談支援や情報共有の取組が行われているのか、行っているのであればどういうことをされているのか。</p>
委員	<p>保護者に対してもサポートやケアが必要であると認識している。保護者同士の交流やグルーピングについて、現在市では制度的な取組を行っていないが、教育経験者や子どもたちへのサポートに専門の知見を持つスクールソーシャルワーカーが市に3名いる。スクールソーシ</p>

令和7年度 第3回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

	<p>ヤルワーカーは、家庭へ出向き、例えば経済的な困難さを抱えている家庭には、就学支援のアドバイスをするなど、子どもの環境を整えるために保護者や家庭へのサポートをしている。</p>
委員	<p>メタバースについて確認だが、今まで世界中からアクセス可能だった環境が狭くなったことで、スケールも減ってしまうと感じる。そうした変更をしないといけないような安全を脅かすことがあったということか。</p>
事務局	<p>ご質問のとおりである。これまでは、まずソフトの方を大事にし、世界中の誰とでもつながるようにしていたが、SNSという不特定多数から子どもたちの安全を確保するために、まずは児童生徒の間で安全に安心して活動に取り組めるようにする、ということでセキュリティを高くした。</p>
<p>資料1：令和7年度の進捗状況 分野3 地域における学び〈P. 5～6〉 （資料2：目標指標、資料6：事前質問一覧含む）</p>	
会長	<p>高齢者の学びの場や行政との連携について様々なご意見を受けているが、この件について発言願う。</p>
委員	<p>事前質問で、認知症予防や介護予防などについて講演会の開催を、というご意見をいただいている。高齢者が健康で充実した生活を送るために、各種介護予防事業として、市で取り組んでいる。高齢者福祉施策として取り組んでいるが、学びの視点も当然必要である。</p> <p>各種事業については、市のホームページをはじめ、広報はしまや自治会回覧などでお知らせしているが、必要とされる方に情報が伝わっていない現状もある。老人クラブ連合会との連携については、老人クラブ連合会に各種事業のご案内をし、要望やご意見があれば、今後検討していきたい。</p>
委員	<p>老人クラブ連合会の現状を申し上げますと、人生100年時代で、心の健康が必要だということを皆さんが言われる。老人クラブ連合会としても、仲間との交流を通じて生きがいや生活を豊かにする活動に取り組んでいるが、会員数は毎年200から300人程度減っている。原因は様々だが、危機感を持っている。特に、老人クラブが解散、または全くない地域の高齢者のほとんどが、何らかの形で生涯学習に参加したいと考えているという声を聞く。そういった地域の高齢者も生涯学習に参加できるよう、ご協力をお願いしたい。</p> <p>また、高齢者もスマートフォンを上手に使う。広報紙は全く読まないがホームページを見ているという方が非常に多い。ぜひホームページの活用もお願いしたい。</p>

令和7年度 第3回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

会長	P T A活動や子ども会の関係でも意見があれば発言願う。
委員	子ども会は活動が少なくなっている。コロナ禍で凝縮されてしまい、再開したとしても一つ二つである。そういった状況がなんとかならないかと思いつつも、保護者も携わるのが難しいところがある。何か良い改善方法があるといいと思う。先ほどの話を聞いて、高齢者と子どもが一緒になって何かできればいいと思った。
事務局	子ども会について課題として大きく捉えているのは、単位子ども会の活動が、盛んに行われているところとそうでないところがあることである。市内全体の子ども会では、子ども会フェスティバルやジュニアリーダーの活躍する場などがあり、実際にそれに参加して来る子どもたちは、とても楽しく和気あいあいと、学年、異年齢が溶け合いながら活動している。子どもたちが楽しむ場が提供できれば、本当に良い経験がたぐさできる。子ども会の方が集まる場では、そのことをお話ししているが、すぐに地域でできるかというそれは難しい。青少年育成の方たちが中心となって夏祭りを企画するなど、学校単位で子どもたちが参加できる催しを増やしているので、様々な形の活動ができるようになると良いと考えているが、単位子ども会については、どのような手を打つか苦慮している。
委員	<p>他の区の単位子ども会の会長と話していると、自分の子どもたちが近所の子どもたちと楽しんでいるため、子ども会の活動自体は負担に感じていないようだ。むしろ、校区や市の子ども会協議会の活動が関わってくることが負担のようだった。自分の単位子ども会のために会長を引き受けたはずなのに、校区や市のお願いがあ。運営の中では当たり前のことだと思うが、実際子どもを育てながら引き受けているので、負担が多いところがある。月に一度、会長が集まる会議も、働いているので夜集まっている。小学生より小さい子を育てている方や、習い事の隙間時間に来る方もおり、決められた時間に来るということ自体が大変である。集まらずに連絡だけで済ますなど、会議を減らそうとしており、大人数が一堂に集まるという昔のスタイルのままは厳しい。上手に緩和していければ良いと思う。</p> <p>また、家族もジュニアリーダーなど、楽しく毎月参加していたが、なかなかその楽しさが伝わっていない。子ども会に入って、ジュニアリーダーに誘われて、初めてジュニアリーダーの存在を知るという子もいるので、もう少し広く知らせていかなければいけない。</p>
委員	P T Aと子ども会の活動を両立させることに本当に苦労しているというお話を聞くことが多々ある。そういった場面では、「やれるときにやれる人がやれることを」ということを大事にするようお話しし、無理

令和7年度 第3回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

	<p>に参加するのは、これからの時代合わないのではないかとお伝えしている。先ほど言われたように、単位子ども会では様々な活動を行いたいという願いも伝わっているが、子ども会の役員を引き受けるときに引っ掛かりになっているのは、上位団体から役割があてられることだと思う。</p> <p>市子ども会協議会の上に岐阜地区があり、その上に県がある。この岐阜地区の子ども会をどのように変えていくのか、昔ながらの子ども会のやり方では駄目だ、という話題を聞くので、少しずつ良い方向になるのではないかと思う。</p>
<p>資料1：令和7年度の進捗状況 分野4 生涯スポーツ〈P. 7〉 （資料2：目標指標 含む）</p>	
<p>委員</p>	<p>今、なるべくパラスポーツ体験を各地域で実施するという方向で、県内5か所で進めている。</p> <p>現在新たに、障がい者スポーツを始める方が少ない現状である。先日、障がい者の雇用懇談会があったが、特別支援学校を卒業された方の60%が、ほとんど外に出ず自宅で生活しているという。社会に対して外に出ることをしない人が非常に多くなっているのが社会現象であるということだった。また、羽島市の身体障害者福祉協会の会員は高齢化しており、各地域の分会も、ほとんど活動ができない状況である。今回ボッチャの大会も皆で出ようという話をしていたが、高齢者ばかりで参加まで行くことができなかった。</p> <p>そんな中、女性の力に目を向け、女性がもっと活躍できる場を広げ、様々な役を担っていただくよう推進している。県の地域創生会議に出た際、今の10代、20代の女性の25%が県外に出るという状況に非常に危機感を持っていると知事が言っていた。女性が学校を卒業した後、羽島市にずっと住んでもらえるような地域づくりが必要ではないかと思う。様々な部分で新たな活躍をされ、地域の担い手として女性が大事だと最近切に感じた。</p> <p>イベントにもそういう方たちを起用することで、参加者が増えるのではないかと思う。対象者を見るのではなく、関係者を引き込んで声をかけ、パラスポーツ体験をもっと羽島市で広げることが大事だと思う。様々な視野で見ただけならばと感じている。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほど、高齢者の話があったが、総合型スポーツクラブでは、高齢者の体操を3か所で行っている。非常に人気があり、入りたい、やってみいたいという人が非常に多く来ている。会場はほぼ満員で、毎週160人くらい参加がある。高齢者の健康志向は非常に高いので、もっと会場があればいいと思う。</p>

令和7年度 第3回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

	<p>また、部活の地域移行について、羽島市では運動部すべての地域移行を完了した。文化部活動では、美術と茶華道について、この4月から地域移行をしている。パソコン、英会話、合唱の3つは体験会を開始しており、生徒を集めている。竹鼻中学校の吹奏楽については、今、5回目の協議会を立ち上げ、地域移行を提案できるよう協議している。</p> <p>ただ、吹奏楽については、練習の場所がないことがネックになっている。特にお願いしたいのは、不二羽島文化センターの練習室についてである。羽島市の交響楽団の練習室がまだ空いていると聞いている。また、使用料が非常に高く、半額減免をお願いしたが、それでも1回の使用に1万円ほどかかる。それに加え、大きな楽器を搬送して練習する際に非常にお金がかかるため、できれば羽島交響楽団の楽器を練習時に使わせていただくと、スムーズに吹奏楽のクラブ化も進むと思う。</p>
<p>資料1：令和7年度の進捗状況 分野5 文化〈P. 8～9〉 （資料2：目標指標 含む）</p>	
<p>委員</p>	<p>家族が円空仏を見た後、ちょうど学校の授業でもまた行くことがあり、とても嬉しそうにしていた。自分が体験することで、羽島には素敵などころがあるね、と言ってくれた。佐吉仏など、地域にすごいところがあるということ子ども頃から身につけると、羽島を好きでいてくれる。</p> <p>また、5月に竹鼻まつりがある。竹鼻に来ない方は、こんな素敵などころがあると気づいていないので、少しでも小さいときから関わっていくことが、文化継承になるかと思う。</p> <p>着物を習っているが、新たに着物を着たいという若い方たちが増えていっているので、固定概念ではなく、少しでも楽しんでもらえるよう活動していきたいと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>文化関係で、高校生との交流の機会もこれからお願いしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>文化関係も、交流できればと考える。県立高校であるため、羽島市出身者だけではないが、様々な分野で、羽島高校の生徒は地域のイベントに出て、自信を持って成長していく様子を見ており、とても良い体験活動の場なので、ぜひ今後も交流の機会があればと考える。</p>
<p>委員</p>	<p>自分も羽島以外の地方から来たが、竹鼻まつりなどの様々な良い文化を見て、羽島っていいな、と思う。こういったものを過去のもので終わらせてはいけないとも思っているが、若い人たちは様々なものに興味を持ち、伝統や文化を無視する世の中になっているのではという気持ちもある。このように様々な文化を持つ羽島市を、もっと推進していきたいと思う。</p>
<p>資料1：令和7年度の進捗状況 分野6 その他支援〈P. 10～11〉</p>	

令和7年度 第3回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

(資料2：目標指標 含む)	
<p>会長</p>	<p>資料2について少し補足をする。</p> <p>目標指数の中で、当市の長年の課題であったコミュニティスクールの理解度については、徐々に高まっており、目標数値を大幅に上回っている。学校側の意見や地域の方の意見を元に、更なる改善を進めているところである。</p> <p>出前講座の実施数については、コロナの影響があったと思う。</p> <p>総合型スポーツクラブの加入については、目標数値が少し高かったという意識があるが、これも全国屈指の先進事例なので、今後もより一層、市としてサポートしていきたい。</p> <p>健康増進教室参加数については、目標数値を令和6年度で達成をしている。</p> <p>美術展の来場者数は、今年度も非常にたくさんの方にお越しいただき、特に優秀作品の解説をするという一般の部での企画もあり、非常にレベルが上がっていると思う。</p> <p>その一方、美濃菊については、高齢化で団体数が減っている状況にあり、今後ともサポートしていきたい。</p> <p>市の公式LINE登録者数は、今1万人を優に超えるということで非常に大きな反響があり、理解が深まっているものと喜んでいる。</p> <p>図書館の資料貸し出し数については、先ほど説明をしたところである。</p> <p>市民活動団体については、登録者数はあるが問題はその中身である。例えばアダプト・プログラムについて私は20年ぐらい前から話をしているが、なかなかそういった形での参画が難しい。市民協働にとらわれず、市一丸となって様々な活動目的に応じた団体育成を進めていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>全体を通じて感じたところを3点申し上げたい。</p> <p>1点目は、まず今までの生涯学習・社会教育というと、施設があり、そこに人々が集うことだった。それも非常に大事な機能ではあり、拠点としてそのような施設は非常に大事だが、待っているのではなくこちらから出かけていくという方向性が、今求められていると感じた。「子育て相談センター羽っぴい」はまさにそのような取組であり、またスクールソーシャルワーカーの取組も、支援を必要な人や学びたい人を待っているだけでなく、こちらから出かけていく、いわゆるアウトリーチと言われるものだと思う。旧来型の待っているタイプの生涯学習・社会教育・福祉だけでなく、それに加えこちらから出かけていくという方向性を強めていくことが大事であり、それが誰1人として取り残さない</p>

令和7年度 第3回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

	<p>というところにつながっていくと思う。支援が必要な人は、なかなか来ていただけなかったり講座を受けていただけなかったりすると思うので、本当に必要としている人に学びや福祉のサービスを届けるには、その人に行き渡るために出かけるということ、生涯学習・社会教育の分野においても今後重要視していくべきだと感じた。</p> <p>2点目は、この5か年計画自体が、持っている知識を分かち伝えることという方向性を一つのテーマとしていると思うが、まさにその方向性が今求められている。高齢者の学びについてもいろいろご意見をいただいた。高齢者自身が学ぶことも大切だが、高齢者が様々な知識や経験を得て学んだ成果を生かすという方向性が大事だと思う。例えば高齢者の学びの成果を学校の様々な教育活動に生かしたり、子ども会の活動に生かしたり、PTAの活動に生かしたり、単に受け手としての学びではなく、学んだ成果を今度は分かち伝え、生かすという方向性が生涯学習・社会教育には今後さらに大事になってくると思う。高齢者の学んだ成果や、シティカレッジの認定講師の学びも、学校の子どもたちの学びに活躍する場ができていくと素敵だと思う。つまり、高齢者、子ども、学校、地域が単体で学びに取り組んでもなかなか効果も数も上がらず、できることも限られているため、連携協働し、単体ではなくつながり合いながら、学んだ成果を生かしていくという方向性があると、非常に良い学びの広がりが出てくるのではないかと感じた。</p> <p>特に自治会の仕事がとても肥大化する中で、地域の人々の命を守ること、暮らしを守ること、次世代の子どもたちを育成することが、自治会の大きな三つの役割かと思う。命には防災などが関係してくるし、暮らしには高齢者の方の見守りなどが関連してくる。また、子どもたちには地域学校協働活動や学校の教育などが関連すると思う。この三つをいかに行うかということが自治会では大事だと感じる。これも学校や福祉の分野とつながり、単体ではなく一緒に行っていくことが大事である。そして、単に学ぶだけでなく学んだ成果を分かち伝える方向性が大事だと感じた。</p> <p>3点目に、実施していることや施設にこういった機能があるということ、いかに地域に情報共有していくかということが、変わらず大事だと思う。あらゆる手段を使って、広報や情報共有に力を入れないと受講者数も増えず、仲間も増えず、つながりづくりにもつながらない。ぜひ、生涯学習の受講者を上げ、地域のつながりを高めるためにも、より広報や情報共有に力を入れていただけると良い。そういった意味では、図書館も非常に大事な役割を果たすのかもしれないと考える。</p>
協 議	次期「羽島市生涯学習都市づくり5か年計画」（案）について

令和7年度 第3回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

	<ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき生涯学習課長より説明 ・会長の進行に基づき意見交換（委員及び事務局から補足説明）
資料3	次期 羽島市生涯学習都市づくり5か年計画（案）
資料4	次期 羽島市生涯学習都市づくり5か年計画（案）概要
資料5	第2回生涯学習都市推進会議及びパブリックコメントでの意見等に基づく計画の修正
会長	<p>委員の意見に基づき資料のとおり修正加筆を整えた。特に、情報発信の関係では効果やメリットを明示すると良いという非常に良いご意見もいただいた。改めまして深く御礼を申し上げます。</p> <p>また、パブリックコメントでは、近隣大学について意見があった。県立看護大学以外にも大垣女子短期大学の学長からも常に連携へのアプローチがあるので、今後積極的に進めていきたい。</p> <p>委員の皆様にはあらかじめ様々な指摘をいただき修正をしてきた。承認いただきたいが、いかがか。</p>
出席委員	（承認）
委員	<p>新しい5か年計画は、皆様のたくさんのご意見をいただき、バージョンアップされて良いものになったと思う。</p> <p>単体で様々なことをしてもなかなか効果は上がらないと思う。子ども会やPTA、自治会、青少年育成、学校など、様々な人がつながり合いながら一緒に取組を進めていくことが大事だと思う。この5か年計画は、それを反映させた形で基本方針が立てられているので、その方向性に沿って今後、皆様に見ていただき、評価をいただいて、さらにより良い取組につなげていくことができると大変嬉しい。</p>
委員	<p>前回見せていただいたよりも、とても見やすく、明確に言葉も選んでいただけたので、少しでも計画に沿って動き、地域活性化ができると良いと思う。プランをPDCAで見直していくという形も、見やすい。</p>
	閉会